

平成31年 教育委員会第7回定例会 会議録

日 時 平成31年4月23日（火）

午後3時00分～午後3時49分

場 所 教育委員会室

議事日程

第 1 報告

【子育て推進課】

(1) 平成31年度 認可保育所整備・運営事業者募集の概要

【指導課】

(1) 教科書採択について

第 2 その他

【子ども総務課】

(1) 教育委員会行事予定表

(2) 広報千代田（5月5日号）掲載事項

出席委員（5名）

教育長	坂田 融朗
教育長職務代理者	中川 典子
教育委員	金丸 精孝
教育委員	長崎 夢地
教育委員	俣野 幸昭

出席職員（11名）

子ども部長	大矢 栄一
教育担当部長	村木 久人
九段中等教育学校経営企画室長	大塚 光夫
子ども支援課長	新井 玉江
子育て推進課長	中根 昌宏
児童・家庭支援センター所長	安田 昌一
子ども施設課長	小池 正敏
学務課長	纒片 淳一
指導課長	佐藤 友信
主任指導主事	佐藤 達哉
文化振興課長	永見 由美

欠席委員（0名）

欠席職員（1名）

子ども総務課長事務取扱 子ども部参事	恩田 浩行
-----------------------	-------

書記（2名）

総務係長	村松 紀彦
総務係員	橋本 悠

坂田教育長 定刻になりました。教育委員会定例会を開催したいと思います。  
まず、開会に先立ちまして、いつものことですが、傍聴の方から申請がございましたら、傍聴を許可したいというふうに思っておりますので、よろしくご了承ください。  
それでは、ただいまから平成31年教育委員会第7回の定例会を開会いたします。  
本日、教育委員、金丸委員が遅れてこられるという報告を受けております。そのほかの委員は揃っておりますので、定足数に達しているということでございます。  
今回の署名委員は、俣野委員にお願いいたします。

俣野委員 はい。

坂田教育長 今回は、議事日程を見ますと、報告案件が2件、その他の行事予定等が2件ということで、案件的には少なくなっております。そうですね。  
それでは、早速日程に沿って進めさせていただきます。

## ◎日程第1 報告

### 子育て推進課

#### （1）平成31年度 認可保育所整備・運営事業者募集の概要

### 指導課

#### （1）教科書採択について

坂田教育長 まず、報告案件に入ります。  
平成31年度の認可保育所整備・運営事業者募集の概要でございます。  
子育て推進課長、ご説明をお願いします。

子育て推進課長 平成31年度、認可保育所整備・運営事業者募集の概要につきましてご報告させていただきます。  
1番は、まず公募の趣旨でございますけれども、引き続き待機児童ゼロを維持していくため、認可保育所の開設を継続していく必要がございます。そのため、平成33年4月の開設園の公募をいたします。  
募集の地域でございますけれども、1枚めくりました2ページ目をご覧ください。前回の公募と大きく変わってはいないんですが、引き続き麴町地域と神田地域の開発の、引き続き人口の増えているあたりを重点地域といたしまして、麴町地域で1所程度、神田地域で1所程度の計2カ所程度、定員に

もよりますけれども、認可保育所を公募したいと考えております。

今回の公募に当たっての大きな変更点でございますけれども、1ページ目の公募のスケジュールのところでございます。引き続き保育所に適した物件がなかなか見つからないという点に鑑みまして、今回は物件を探していただく期間をできるだけとろうという趣旨から、既に今回のときに第2期までの公募のスケジュールをお示ししております。第1期の公募が、一旦8月まで締め切りまして、万が一ここで予定数に達しなかった場合は、2期目もすぐに公募しますよということで、1期目の締め切り後も引き続き募集をしていただくことで、万が一見つからなかった場合の2期目の物件を探していくというのを、事業者さんに継続して行っていただくという考えで、ここが大きく今回の公募から変更しております。

その他の実績の要件ですとか経済的基盤ですとか、公募に当たって地域に事前説明をしてくださいというようなことにつきましては、昨年度の公募と特段変更点等はございません。

説明は以上です。

坂田教育長

はい。ということでございまして。まだ保育所需要が相当高いというか、むしろこれから教育保育の無償化が始まります。施設がないということは、その手前の問題として一番大きく、無償化の話の中で相当指摘をされてきたところです。まず箱がないとどうにもならないんじゃないかということですね。とにかく保育所を当面は増やしていかなきゃいけない。しかしながら、それがそのまま小学校、中学校へと影響してくるんで、そちらの物理的なスペースの問題なども射程に入れなければならないというような事態にもなってきているということです。

ということでまた、公募いたします。何かご意見、ご質問等ございましたら。

俣野委員、お願いします。

俣野委員

これは、人口動向を参考に、何年ごろがピークになるのでしょうか。

坂田教育長

中根課長。

子育て推進課長

明確に人口推計等は、企画課のほうで実施する予定なんですけれども、おおむね今後5年ぐらいは、引き続き増えていくのではないかと私の課のほうでは見込んでおります。おおむね今後5年間ぐらいは、1年間2園から3園ぐらいは開園していく必要があるのではないかなというふうに、今、私どもとしては考えております。

ただ、今年度末に策定する子ども・子育て計画の中で、その推計というのは明確にしていきたいというふうに思っております。

俣野委員

これを拝見すると、平成33年オープンですよ。そのぐらいまではまだ増加するというお考えですよ。

子育て推進課長

今現在、就学前のお子さん、これまでの推計で年間200名ぐらいい、増えてきておりまして、住宅の着工の届け出の状況を見ますと、やはりそのぐらいいのペースで今後数年は増えていくのではないかなというふうには見ており

ます。

俣野委員  
坂田教育長  
ありがとうございます。  
はい。ありがとうございました。  
ほかにございますか。  
中川委員。

中川委員  
この公募の要件の中に、麴町地区と神田地区に分かれていますけども、下線が引いてある部分とそうじゃない地域がありますね。これは、下線が引いてある部分を中心に探してくださいという意味なんでしょうか。それとも、なければこっちのほうでもいいよということでしょうか。

坂田教育長  
子育て推進課長  
はい。中根課長。  
説明が不十分で申し訳ございません。対象地域といたしましては、ここに載っている住所は全部公募として対象、このどこかに応募してくださいということとなっております。  
ただ、人口の伸びの状況を見ますと、できたらこの二重線が引いてある重点地域に開設していただきたいということで、審査のときにおいても、事業者の提案について、総点数をこの地域に限っては1.2倍にして判断します。

中川委員  
坂田教育長  
はい。ありがとうございます。  
ほかにございますか。  
(金丸委員、入室)

金丸委員  
坂田教育長  
遅くなりました。  
何かご意見等ございますか。  
(なし)

坂田教育長  
それでは、ほかにはないようですので、次の案件に参りたいと思います。  
次の報告事項は、教科書採択についてでございます。  
指導課、説明をお願いします。

主任指導主事  
平成32年度使用千代田区立学校教科用図書の採択事務日程についてお伝えいたします。  
今年度は、32年度使用の小学校用の教科書採択が、大がかりな調査内容になっております。毎年、中等教育学校後期課程と特別支援学級用の教科書については、毎年採択の作業を行っているところでございますが、今回、小学校用について、新たな検定教科書の申請があったことから、32年度使用の教科書採択に向けて作業を行っていくこととなります。  
教科書数も非常に多いことから、日程の面を先に、今回の教育委員会でご報告させていただきます。  
詳細は、こちら、プリントをご覧ください。採択の流れですとか、また、その方法等については、次回5月14日の定例会においてご報告をさせていただきます。  
大まかなところでは、教育委員会としては、7月9日の教育委員会定例会で、それぞれ、選定委員会のほうから、その調査結果について答申をさせていただきます、それをもとに、教育委員会の中で協議、ご審議いただき、8月27

日、定例会において議決をしていただくということでスケジュールを組ませていただいております。

小学校における調査研究等の日程については、小学校というところの欄をご覧ください。既に4月、小学校長会長に選定委員の推薦依頼を出しております。5月になりましたら、見本本が順次届きますので、各校に配布して、十分に調査研究ができるように体制を整えているところです。6月4日と7月2日に、2回選定委員会を行い、そこでの結果を、7月9日の定例会でご報告させていただきます。

また、詳細につきましては、次回の定例会でご説明させていただければと思います。

報告は以上です。

坂田教育長

はい。ありがとうございます。

教科書採択でございますが、今回は小学校と中等、どのぐらいの種類があるんですか。

主任指導主事

今回の教科書、小学校の中では、検定結果を通ったのは、全てで164点ございます。出版社名で言ったほうがわかりやすいかと思っておりますので、出版社で言うと、16社、検定を通っていることになります。

坂田教育長

はい。

何かご意見、ご質問がございましたら。

中川委員。

中川委員

教科書が順次届いているというふうにおっしゃったんですが、私たちが手にすることができるのはいつからなのでしょう。

坂田教育長

主任。

主任指導主事

ゴールデンウイーク明けには教育委員室のほうに1セットずつセットさせていただきたいということで、今、準備を進めさせていただいております。

坂田教育長

はい。ありがとうございます。

ほかにございますでしょうか。

これは、新指導要領に基づいた教科書のつくりになっているということですか。外国語やプログラミングとか。

指導課長

外国語のほうも新しく、2020年度用の教科書ということで、今回、採択の対象になっています。

また、プログラミング教育につきましては、プログラミングという教科はなく、それぞれの、例えば教科の中でこういったプログラミングができますよといった内容が算数や理科等で示されていくという形になります。

坂田教育長

はい。ありがとうございます。

中川委員。

中川委員

ゴールデンウイーク明けに、国語はこういう出版社から出ています、といったような一覧表みたいなのはいただけますでしょうか。

主任指導主事

各教科、すぐにご用意いたします。

坂田教育長

はい。よろしく申し上げます。

ほかにございますか。よろしいですか。

(な し)

坂田教育長

はい。それでは、また、次回の定例会で詳細をお願いいたします。

これで、報告事項は終了いたしました。

## ◎日程第2 その他

### 子ども総務課

#### (1) 教育委員会行事予定表

#### (2) 広報千代田(5月5日号)掲載事項

坂田教育長

次に、日程第2に入ります。その他事項でございます。教育委員会行事予定、そして広報千代田掲載事項でございますが、子ども総務課長がお休みでするので、ちょっとお目通しをいただきたいと思います。

何かお気づきの点がございましたらご指摘いただきたいと思いますが、よろしいですか。

中川委員。

中川委員

この連休中の緊急事態の対応や何かは、教育委員会としてはどのように考えていらっしゃるんでしょう。

指導課長

学校につきましては、何かあった場合には、私のケータイが各校長はわかっていますので、直接連絡をとるという形になります。

あと、これは私の範囲かどうかわからないんですが、教育委員会の皆さんに関しては、連絡可能日を調整しながら、いざというときには出勤する体制を総務課のほうでまとめていただいて、体制を整えているということになるかと思います。

坂田教育長

そうですか。はい。災害対策じゃございませんですけど、緊急時対応の管理職への連絡網というのは、これはきちっとできているという話。

あと、地域で子どもたちが何かあったというときは、学校の場合は、今、指導課のほうに連絡が来てということになります。子育て関連だと、担当の保育園なり児童館なりから所管の課長のほうに連絡があります。

広報千代田掲載事項につきましても、お目通しをいただいて、必要に応じて参加もしていただきたいと思ひますし、お気づきの点があれば、この際ご指摘をしていただければと思ひます。

金丸委員。

金丸委員

区の形式的なあれですけども、3番目の平成31年度就学相談の開始というのは、5月5日に発行されるものとしてはいかがなもんかと思ひんですが。5月5日ですから、もう元号が変わっているだろうと思ひますね。

坂田教育長

これ、安田所長のほうでは、指摘はするのかな。それは広報全体の中で見直すのかな。

子ども部長

区の中で、令和に変わる前までは平成で通しておいて、そこを過ぎた後は令和に読みかえるという、そういう区全体の統一が、たしか通知みたいなもの

が来ていたと思うんですけどね。

坂田教育長

これ、まちの人に届けるんでしょう。読みかえるみたいなことは、この広報の中に掲載するのかな。

児童・家庭支援センター所長

統一的なやり方があると思うので。いずれにしても、ご指摘を踏まえて確認いたしますので。

坂田教育長

はい。よろしくお願いします。

ほかにございますか。よろしいですか。

(なし)

坂田教育長

はい。それでは、行事予定等も終了させていただきます。

それでは、きょうの日程につきましては、これで終了ということになりますが。教育委員のほうから情報提供、課題提供等ございましたら、ひとつお願いいたします。

金丸委員

この前の教育委員会の直後なんですけれども、教科担任制について、もう既に浜松市でモデル校が決まって進んでいるというようなニュースがあって、これはどんなふうになっているか、千代田区としてどうすべきかということはやっぱどこかで論じなきゃいけないなど。

あと、麴町中学校ではないですけども、世田谷区の桜丘中学校ですかね、校則なしというのが出てきているので、それも、これから学校のあり方で大きく変わってきているなというふうに思います。

他方で、明石市の半数以上の中学校で、総時間数が、文科省の定めた標準よりも少ない状態が続いているというニュースがありましたけども、千代田区は大丈夫だろうかという心配をしました。

さらに、保護者の負担の見直しは今問題になっていて、例えば小学校に入るときに、算数セットとかそういうのをいろいろと負担している、それについてどうなのかということ。ある市では、貸し出しにしているというようなどころも出てきていますね。学校がそのものを買って、貸し与える。で、足りなくなったものをつけ加える。そのほうがはるかに合理的かなというように。一体千代田区はそういうものはどの程度必要になっているんだろうかというのがちょっと知りたいなと思っております。

坂田教育長

まず、教科担任制。

指導課長。

指導課長

教科担任制と世田谷区の桜丘中学校と標準時間数については、指導課のほうで今知り得ている情報と、あと考えというか、それをお話しさせていただきます。

まず教科担任制ですけども、こちらのほうは、文部科学省の柴山文科相のほうで、これから先の義務教育のあり方ということの1つの中で、小学校の高学年の教科担任制について積極的に議論をしていくということ、中央教育審議会のほうで検討をとということで話が出ているところがございます。高学年にしたというところは、報道のとおり、子どもの興味、関心が多様化している中で、高学年という時期に、教師の専門性や適性等を生かして、一

部の教科で教科担任制を実施する、もしくはフルで実施するのかというのは、またこれから先の議論になってくるということで。恐らく2025年ぐらいには、何らかの形で具体的な方向が示されるんじゃないかと。すなわち今の学習指導要領、新しくなるので教科書が選ばれますが、おそらく、次の学習指導要領になるとときには、教科も含めて、学校のあり方が大きく変わっていくような動きになるんじゃないかなと感じています。

これの実施に当たっては、まだ具体的な、言葉のイメージだけですので、具体的にということ示されていないんですが、実は働き方改革ともリンクをしていて、小学校の先生だけではなく、そこに中学校の先生も生かしながら、何とか時数を組んでいけないかというような考えもあるということです。今、大きく5年後、10年後のことを考えると、大きく注目していかなければならないということで、現在、指導課のほうでは情報を、指導主事も含めて、共有しているところです。教科担任制については以上です。

続いて、世田谷区の桜丘中学校では、その学校長は再任用の先生なんです。いろいろな教育の本質に迫るのにはどうしたらいいということで、学校長の経営方針の中でいろいろ取り入れて実施しているところがございます。ですので、本区の中でも、さまざまな取り組みを2校で行っておりますので、そういうところと重なるところがある部分もあると。校則、ルールや、例えば子どもたちをどのように受け入れていくかといったことに関しては、本区の中でも行われている実践と重なっている部分もありますので、情報のほうは既に入手していて、その動向を今後も見守っていくというような形であるところがございます。

あと、標準時間数でございますが、こちらについては、標準ということで、実際に千代田区の場合は、各学校で、時数を主に管理しているのは教務主任という役に当たるものですが、その者が、毎日どの時間をどの先生がどのように授業数を行ったかということは、学校の中で取りまとめてカウントしているものを、こちらも共有できるようにしております。指導課としては、それをまとめていただいたものを、学期で報告を受けている現在の状況において、標準時間数に達していないというところは、報告ありません。

ただ、これには、あくまでこれから議論が出てくると思いますが、標準という捉え方をどう捉えるのかということで、国のほうも二転三転したような意見が出ているようですので、これも慎重に考えることが必要です。現在、新学習指導要領において、英語が増えるということで、特に小学校の場合は、かなりオーバーロードといたしますか、今までの授業の時程の組み方では非常に苦しい状況にあります。ですので、そんな中、やはり年間を通した休日の曜日が重なっていたりとかすることもありますので、中学校も含めてですけれども、その時間割の組み方等につきましては、学校が相当苦勞しています。

そういった意味での最初の1点目の働き方改革や、新しい、その次の学習指導要領をどうするかということを含めた議論にもなってくるんであろう

というふうに推察はしているところでございます。

以上です。

坂田教育長

はい。

あと、教材費の保護者負担等の問題ですね。

学務課長。

学務課長

学務課で補助をしていないので把握していません。学校の中で何を買っているかというのは学校長の判断です。

指導課長

私費会計の部分、教材ですので、例えば入学時にお道具箱を買うであるとか、そういったものとか、学期ごとの各学年のテストであるとか、そういったものは全て学校のほうで選定をした上で、保護者了解のもと、私費でお金をいただいているという形になって、今現在動いています。それが私費会計ということで、各学年が取りまとめて、年度末に精算をし、齟齬がないか確認して返金等を行っています。

金丸委員

いや、負担が大きいというよりも無駄が多いと思うんですね。

坂田教育長

ああ、使い回したほうがいいたろうと。

金丸委員

買ったほどには使っていないで、一応は揃えるのだけれども、ほとんど使うことがないものもあるし、各学年が、新入生が入るたびに買う必要があるのかという立場から見ると、学校のほうで用意してしまったほうが合理的かなと感じます。

坂田教育長

そういうケースって、感じたことはございますか。

長崎委員

算数セットみたいなので、いろいろ、いろんな種類のものが来るんですけど、確かにその全ての教材を使い切っていないのかなと感じることはあります。

でも、1年生のときに算数セットって学校で支給されますよね、もちろんお金は私費でしょうけど、すごく嬉しそうなんですよ、自分のものという。

坂田教育長

ああ、自分のものという感覚。

長崎委員

親は、それぞれ、おはじきみたいなのに名前をつけるのが大変だったりしますけど。それを生かす授業をしていただけるのであればいいのかなと思います。

指導課長

ご指摘ありがとうございます。ご意見ありがとうございます。

私費で買ったものにつきましては、必ず使うというのが原則、使うというか使用するというのが原則です。例えばテストであれば、必ず全部実施する。ドリルであれば必ず使う。あと、理科で、ちょっとした模型のキットで実験がしやすくなっているようなものなども、必ず使用するというのが原則です。

算数セットにつきましては、今ご指摘のとおり、ひょっとしたら全部を満遍なく使うということが難しい状況にあるかもしれませんが、最近の算数セットの、例えば数え棒の組み立てやすさとか、おはじきにマグネットがついていたりとか、さまざまな使い方ができるようになってきていますので、小

学生の1年生、2年生の適性上、そういうものを使って具体物を動かす授業がやはり実施されるのが望ましいですし、それを全く使わないということはないと思います。ただ、使用頻度に若干差が出てしまうところがあるかもしれないので、そういったところは、こういったご意見をまた学校のほうに伝えて、やはりもう、そういった子どもたちの理解を促進するための道具だということで、活用を促進していくように声をかけていきたいというふうに考えます。

坂田教育長 はい。ありがとうございました。ということです。

ほかにございますでしょうか。

長崎委員。

長崎委員 港区のほうで教育マイスター制度というのが始まったそうなんです。港区立の幼稚園、小学校、中学校に在籍する教員の中で、特にすぐれた指導力のある教員をマイスター教員として認定するんだそうです。今年度は、5人の先生が認定されて、在籍の学校以外にも広く指導というか、授業の、生徒の学力向上につながるような何かをするということらしいんです。

これが始まって、千代田区として全く真似するというのではなくて、今後この制度がどのように活用されて、何が還元されていくのかを見ておくのはいいのかなって思いました。

坂田教育長 マイスター制度、承知していますか。

指導課長。

指導課長 マイスター制度、優秀な教員を区のほうの教育委員会のほうで認める。優秀な先生というのは、実践や研究を個人で積み重ねて成り立っているところがございまして、その方の実績をたたえる、高いモチベーションをたたえるということと、あと、ぜひその指導をいろんな、1校だけにとどまらず、多く広げていこうというようなことを、区の枠の中のフットワークでやろうとしているところだというふうに感じています。港区が始めたということですので、規模的に、近いところの港区がどのような形になるのかということについては注視していきたいなというふうに考えます。

実は、他区でも行われている例はあります。何よりもまず、東京都が、優秀な先生という方に対して指導教諭という4級職を与えています。本区にも指導教諭はおります。で、その指導教諭は何をしているかというと、東京都全体に対して授業を公開する。年度にこれだけ、指導教諭という4級職なので、1つの役割として必ず東京都の先生方全体に広げて、授業を公開してくださいと。

本区におきましても指導教諭はおりますので、その指導教諭に、例えば区のほうからこの研修で授業をやってくださいというシステムがあります。なので、簡単に言うと、都と区で、区もやったとしたら、都と区と重複する形にはなるかなと。また、指導教諭は、指導課のほうでその授業を見に行ったりとか、取り込む姿勢とか、校長先生からの評価というものがあり、選考を受けてなる方です。

港区はどういうふうにしたかということも含めてなんですけど、その選ばれた過程みたいなのも実は大事なのかなと。ただ単に励ますということではなく、確かにこれからの授業、これからの子どもたちのために、力をつけるための授業になるというふうに、こちらがしっかりと見るという機能とか仕組みも大事なのかなというふうに思います。

ただ、先生方の励みにはなるとは思いますし、そういうことをわかりやすくしていくというのも大事なことです。それ以外の方法も含めて、教員の育成については検討していきたいと考えます。

坂田教育長

はい。ありがとうございました。

長崎委員。

長崎委員

6月15日の土曜日に千代田区のミニバスの大会があるんですね。例年8校が出場するんですが、今回、九段小と麴町小は、登校日と重なってしまっていて、去年もたしか麴町小は重なってしまっていて。登校日と区の大会がぶつかからないようにするようなのというのは、このバスケットボール協会側の周知が遅いのか、小学校側の年間予定を組むときに小学校側がそういうのを調べたりもしないのか。もうちょっとうまく日程って組めないんでしょうか。

坂田教育長

それ、主催は。

長崎委員

主催は、千代田区バスケットボール協会ですかね。

坂田教育長

体育協会の中の1つですかね。バスケットボール協会。

長崎委員

はい。土曜日授業で、道德地区公開講座にぶつかってしまっていて。授業を優先する子と大会を優先する子といるんでしょうけど。それぞれの機会を奪うようなことがないようにしていただけたらいいかな、なんて思いました。

坂田教育長

これ、何か情報はわかっていますか。

どうぞ。

指導課長

恐らく他区でも同様の事例があつて、経験上の話で言いますと、私が前任でいた区も、野球の大会があつたりとかサッカーの大会があつたりとか、そういうのがあつたりとかして、また、その子も、区のほうで主催しているものに出ている子もいれば、もうちょっと規模の大きいところで出場している場合がありました。前任区の場合は、とてもそういったものが入りまざった数が多かったので、現実、学校が調整し切れないということが起きてくる区もあります。

ただ、本区に関しては、8校ですので、事前にそういった大会の日程が、例えば今回の長崎委員のお話に出てきているバスケットの大会が、事前に学校のほうに情報として伝わっていたのか、伝えた上でこうなったのか、調整できるのか、経緯は申し訳ありませんが把握しておりません。

去年は大会を見させていただきましたが、担任の先生とか学校の先生とかが応援をしているような風景もありました。学校がそういった大会を損なう気持ちは恐らくないのではないだろうと。できれば出してあげたいという気

持ちがあると思いますので、今後、校長会等と考えながらやっていく必要があるのかなというふうに思います。

ただ、その日程を決めるのが、大卒がやっぱり1月ぐらいには学校は決定していかないと、ほかの予定を組み入れられない。例えば道德地区公開講座であれば、この講師を呼びたいとかというものがあればその調整の上でまた決めていくので、地域のそういった行事に合わせられるかどうかということと。あと、どうなんだろうかね、ほかにサッカーとか野球とかがあった場合に、そういうのも含めて調整をしてきたのか、できるのかということに関しては、ちょっと今の段階では情報が不足しておりますので、ちょっとお時間をいただきたいなというふうに思います。

坂田教育長 はい。ということですので、また確認してみましょう。

はい。ほかにございますか。よろしいですか。

中川委員 この間テレビで見ているならば、『すずちゃんのうみそ』という、どなたかご覧になった方はいるかしら。発達障害のお子さんがいて、そのお母さんが中心になってつくった本なんですけども、何で発達障害の子はそういうことをするのかというのを、お母さんとそれから本人のすずちゃんという子の目でもって見た本なんですけども。その本をクラスでもって子どもたちが読んで、すずちゃんのひとをよく理解できたということ。子どもたち、お互いによかったということの例として紹介されていたんですね。

これが、真ん中にいるのがすずちゃんという子なんだけども。こういうふうに、みんなでもって、三輪車なんかに乗ったりして。このすずちゃんというのは、中学は特別支援学校に行ったんですけども、お母さんが小学校での交流を知ってもらいたいので出版したということです。

自閉症ってそうなんだということで、大人にもわかりやすいし、それから子どもが読んでも、絵本になっていますからわかるということで、これを何かこう、うまく教材に使ってできるといいかなというふうに思いました。

坂田教育長 はい。ありがとうございます。

1回読んでみたいと思いますし、どのように使ったらいいかということも含めて、考えたいと思います。

ほかに情報提供はございますか。よろしいですか。

(なし)

坂田教育長 これにて本日の定例会を閉会いたします。ありがとうございました。